

主な記事

イオン交換樹脂について…	1
退官される林先生……………	2
ごあいさつ……………	4
50周年記念祝賀日程……………	4
さ ろ ん……………	5

千曲会報

昭和35年5月1日発行

長野県上田市常入
信州大学繊維学部内
編集兼発行人 小山長雄
信州大学繊維学部内
発行所 社団法人千曲会

昭和31年6月18日第3種郵便物認可 毎月1日発行 定価1部15円 振替口座 長野 6243 東京 43341

イオン交換樹脂について

高分子学会イオン交換樹脂委員会委員 北条舒正

濾しただけで海水が真水になったり、完全な純水（蒸溜水）が出来るということはイオン交換樹脂（IER）を専攻している者以外に一般の化学者も仲々信じていなかったのが今日では全国の工場で小さな装置で大きな能率をあげその実力の程は一般の人々にまで認められる様になりました。IERは高分子物質（プラスチック）の一種でしかも化学反応の重要な要素である酸または塩基の性質を全部有しています。この様に酸として働き水中の+電気をもつイオンを残らず吸着する樹脂をカチオン交換樹脂といいます。同様に塩基として働き-イオンを残らず吸着するものをアニオン交換樹脂と名付けられています。また吸着したイオンは樹脂から外に追い出すことが出来るし何回もこれを繰返すことも可能です。この様に酸、塩基として例へば外にこれがプラスチックであるため容易に液から取り出すことも出来ますし都合の良い面が沢山あります。酸に強酸、弱酸の別がある様にIERにも色々な種類のものが製造されそれぞれ特有な吸着反応をします。したがって用途にしても余り広範囲にわたるので簡単に記すことも出来ませんが次にごくあらましをのべてみましょう。

1. 不純物イオンの除去：純水、硬水軟化、蔗糖、ブドウ糖水飴製造等で現在最も多くの量が使用されています。一般化学工業は勿論染色工業にも進出し鮮明な色調を出すのに役立っています。又火力発電所には多量の純水を必要とするので大規模の装置が作られています。砂糖工業で活性炭の代りとして結晶の収率を上げるのに広く用いられます。
2. 貴金属イオンの分離：余り含有量が少ないため従来の方法で採算のとれない場合に加熱濃縮せずにIERで容易に回収出来ます。原爆製造や原子炉の副産物中の各成分元素の分離、キニーネやストマイの製造、アミノ酸の抽出分離、
3. イオンの置換：野菜の無土壌栽培 4. 緩衝剤：溶液、培養液、土壌の緩衝剤 5. 触媒：6. 医薬：胃薬、節Na食の脱塩剤、解毒剤：中和剤の代りに胃酸の過剰分をとり有害なイオンを残さない。腎臓病患者には普通食をとりその中のNaClを計算してそれに適した樹脂でNaをとり、高血圧の場合もNaが有害であるので同様に行います。樹脂は酸、アルカリにやられないのでHClやNaを包えたまま消化されず体外に排出されます。7. 抗菌剤：大腸菌等の抗菌剤として有効 8. 分析化学：アメリカでは学校分析に正式に広く採用され従来の方法を一変させています。日本では一部に採

用されていますが恐らく近い将来アメリカ同様になるでしょう。例のビキニの灰1g（大部分はサンゴショウですのでCaCO₃）から10数種の核分裂物質を分離定量しこれから元の爆弾の組成を想定しその危険性をいち早く内外に声明して米政府をして爆弾の内容を公表せしめざるを得なくせしめたものは1本のガラス管に入れられた20cc程のIERでありました。この場合灰をHClにとかしIER中にとりて全イオンを吸着せしめた後PHの異なった緩衝液を次々に流して全イオンを簡単に分離することが出来る。この簡単さは従来の方法とちょっと比較することも困難な位です。以上の如く単に工学のみならず理、農、薬、医等広く関係しています。IERは使用目的に応じて形態も異なったものが作られ普通は粒状～粉末ですが膜状、繊維状、液状のものが製造研究されています。食塩を基礎原料とする化学工業は一大部門を形成していますがこれを輸入にまわっている我が国では如何に努力研究しても地下カン水や岩塩の手近にある諸外国との競争には宿命的なひけ目をもっています。これを解決せんとする研究は他の分野ではみられない激しいものがあり膜を用いての研究がやっと実のつて来ました。工業化の見通しも立って新会社もこの程設立を見た次第です。専売制の上にあぐらをかいていた製塩業もこのIER膜の出現でやがて塩田等は完全に我々の周囲から姿を消さざるをえない様になるでしょう。それが余りにも急激で政府関係はとまどいましたIERの真価を信じ難く調査員を海外に派遣した程でした。0.8m²のカチオン、アニオンER膜を同数（1単位200枚ずつ）用い年1万屯のNaClを作るのに樹脂槽床面積から50坪を良くこれが50町の塩田に相当する。年産120万屯とすると延6千坪あれば良いこととなります。価格は国産塩11,000~12,000円/屯、輸入塩4000、IER膜法塩6,500（現在）将来は4,000円以下になります。私の研究室では多数混在せるイオン中少量含まれる特別なイオンのみを吸着する選択吸着樹脂の研究を行なっています。その中特に興味のあるものがキレート樹脂です。キレートの名は最近になって少しは知られる様になりました仲々面白いものです。複雑な天然高分子や生体中での化学反応をキレート樹脂中での反応からうかがうことも出来ますしこれから繊維の染色性や品質改善等の副産物を産んでくれます。さらにガンがキレートに関係ありそうだと等と大それた考えをもつ様になっています。これらの事項については何れ別の機会にでも述べさせて頂きます。（繊維化学科・高分子化学研究室）

退官される林先生

萩 原 清 治

今秋はいよいよ母校創立以来半世紀の繁栄の記念祭が行なわれることになり、千曲会が中心となり、母校教職員一丸となって目下計画が進んでいる。この記念すべき時を目前にして林教授は去る三月をもって業なり、名とげて停年退職した。全生涯を打ちこんで母校と共に生きてきた先生にはほんとうに感無量のものがあると思う。後をひきつぐ吾々は、先生ほんとうにご苦労様でしたと心から停年を惜しむとともにご苦労を感謝し、今後いよいよご健康で心静かなご生活をされることを心からお祈りしたい。

先生は大正5年3月製糸科を卒業し、純水館に入社し、大正9年5月母校の招請をうけて助教授として奉職され、本年3月まで実に40余年の間、ひたすら母校発展のために各方面において広範な活躍をされてきたのである。

私は大正11年4月入学以来、恩師としてまた先輩として公私共に数々のご指導をいただいたのである。当時先生は三谷先生のあとをひきうけて製糸科の中心となり講義は勿論、就職についても若い学生の親身となってご奮闘して下さったのである。当時の蚕糸業は吾が国輸出産業の大宗として最も人気のあったもので、優秀な学生が全国から集まり、これらの人々は全国に有力な職場をあたえられて活躍しているのである。

吾々の先生からうけた講義は原料論と乾燥論であったが間もなく製糸学に転じ、その頃東大に内地留学をして心理学を研究し、帰校後は工場管理をも受けもたれ、その頃、工場能率増進の先駆となったテラー学説によるモーションスタデー、タイムスタデーの講義は今もなお記憶に新たなもので、現在の品質管理にも比すべき工場経営の基礎となった最新の学問であった。また研究方面では当時誰れも手をそめていなかった繰糸張力の研究を行ない終始一貫、幾多の業績を発表し、今日におよんでいる。先生のこの研究が繰糸技術の発達に偉大な寄与をしたことは言を要しないところであり、また万人のみとめるところである。その他数々の研究はいづれも

斯業発達の原因となり、吾が国製糸業発達史上重要な研究の一つとして永遠にその名は残るのである。その間千曲会のためにも常に先頭にたつて活躍され、在職以来、名会計理事としてまた昭和25年理事長に就任し、その間母校10周年記念25周年記念事業をやりとげ、更に母校単科外格運動の中心的存在として活躍されたのである。

また対外活動としては蚕糸に関する各種団体の委員となり吾が国蚕糸業界の動向を決定するリーダーとなり、また昭和31年の第4期学術会議員の選挙には推されて立候補し蚕糸関係における従来の最高点を得て当選したこれらのことを見ても先生が吾が国蚕糸業界において各方面から高く信頼され、期待されていたかがわかる。更に転じて昭和33年の学部長選挙では卒業生最初の部長となり退官になるまでの活躍はほんとうにめざましいものであった。また先生は非常に情にあつく、世話好きで、先生の月下氷人によって家庭人となった人は多く、いづれも立派な家庭をつくっているとか聞く。更に先生の尊敬される所以は他人を非難しないことである。在職四十年の間にはいろいろ苦難のこともあり、敵もあったことと思うがかつて他人を非難したのを聞いたことがなかったのである。このような円満な人格こそ先生の人生が常に順風に帆をあげて波静かな海上を好運のうちに過ぎることができた原動力となったのではないだろうか。

限られた紙面では先生の日常を書きつくすことはできない。以上をもってしても先生の人格が如何にエネルギーに富み、学者的であり、社交的であり、人情家であり、八面六肘の活躍家であったことがわかるのである。

停年とはいえ、常に若々しい先生の身邊には先生に悠々自適の生活を許さないような幾多のことがまわっているのではあるまいか、どうかいよいよ御自愛を専一になされ、長生きされ、生のある限り有意義のご生活が続けられますよう心から御祈りする次第である。先生ほんとうにご苦労様でした。

(35-4-12)

林 貞 三 先生 の 御 退 官 に 想 う

青 沼 茂

林先生は去る3月末日をもって停年で退官された。先生は大正9年母校に奉職以来、実に40年、殆んど全生涯を母校とともにされたといっても過言ではない。それだけに学内の一木一草にいたるまで深い思い出がひそみ、御退官にあたっての先生の御感想は我々の想像以上のものがあるかと推察された。それに反して、我々に対する退官挨拶は極めて淡々たるものであった。この辺に先生の御人格の片鱗がよく伺われた。かつて昼食を共にしながら聞かされたアメリカ映画「チップ先生さようなら」の内容がそのまま過目の林先生の姿であったことに気が付き、無言のよき教訓とひとり沁々敬意を表した。先生の在職40にくらべると私が直接先生に接することの出来た15年というものは必ずしも永くないが、少くとも最も身近に先生の御指導を仰いだ点から先生に対する思い出印象はことに深い。先生の昔のことは私の知るよしもないが少くとも若かりし頃の先生の写真や同窓の大先輩の話による

と、当時は大変に雷的存在で学生からこわがられていたようである。とくに先生のひげと豪傑笑いは誰しも強く印象に残るところであろうと想像する。事実私が学生の頃も非常によりつき難い先生であったことを記憶している。然し先生と共に生活するうちに、先生に対する上記の印象は余りにも皮層的であることに気付いた。先生は学生を激しく叱りとばしておきながら、学生の立去ると同時に笑って水に流され、先生の脳裡には少しも憎しみなどは残されていないことに気付いたからである。先生はいつも心から愛の鞭をもって後進の指導にあたっておられた。先生の心情をそこまで理解せずに叱られっぱなしで今以て先生をうらんでいる方がおありとすれば、改めて先生の真意を解していただき度いと思う。先生は色々の会議等においても極力無駄な発言はひかえられていた。そしていつも物事の大きな流れに注目されて些細なことにこだわらなかったように思う。この点大久保彦左衛門的で

雨にぬれる小雀

—八木誠政先生の退官にさいする弟子の述懐—

小 山 長 雄

私をはじめ八木先生に教えをうけたのは、昭和12年とい
いますから、もう20年以上も前のことになります。

しかし私にはそのころの八木先生の印象がまことに鮮かに
残されております。先生は私たちにとって近よりがたい“そ
そりたつた”存在で、したしく教えをこうなどは夢にも思っ
ていませんでしたので、講義をうける最初の日は、うれしさ
やこわさや好奇心で心がたかぶるのを禁じませんでした。
長身の先生の姿が教室に現われると、ゴックリと生睡をのみ
こみ、ペンを持つ手が汗ばんでくるのを覚えました。

ですから私は先生とこのころの助手に決ったとき“よい先生
につけてうれい”——というとうぜん感慨も浮ぼす、む
しろぼくぜんたる不安におののいていた、というのがいつわ
りのないところだったのでした。当時私はシベリヤから帰国
して日も浅く、生命だけをようやく持ち帰ったという状態
だったので、後生はできればきびしい生活の場から逃れたいと
いった安易な人生観におちいっていたこともその原因のひと
つかと思います。おろかしいことであります。

八木先生からうける第一印象はどなたも私とほぼ似たもの
であることを聞いております。これはどうしてなのでしょう
か。私はいまにしてそれは“山には谷がある”ということ
を忘れていたからだと思えます。だいたいにおいて高い山ほど
谷は深いものではありますまいか。自分との懸隔のはなはだ
しさにヘキエキするのはよいとしても、山の頂上ばかりを眺
め、これが山の全貌であるかのように思うのは、いけないこ
とであります。このような理をさるとに私は数年をけみしま
した。谷はおそろしく深かったわけでありました。

先生の研究上の業績は今さら申すも愚、その着眼のよさは
学会の定評のあるところでありました。これはやはり不断の勉
強がベースとなっていることはいなめません。とにかく異常

もあつたわけである。政治力がおありになるという風評の高
かつた面もこの辺にあるものと考えられる。先生の御宅に向
うと佐久間象山先生直筆の「尚有識」と書かれた額が目につ
く、先生はその真意をつかもうとされ23~4年振りに旧職
倉先生によって解かれ、もし識るあらば、とさつた時、
その名言に非常な感銘を受けておられたことを記憶してい
る。これも先生御自身に同様な処世観が内在していたことに
外ならないと感ぜられた。同窓の日綿実業KK石井彦七部長
が申されたことに「林先生の味は50才台にならんとわからん
よ／＼」と……いう表現は何かしら林先生の御風格について
的を貫いているもののように痛感したことがある。また一面
には先生はたしかにワンマン的でもあられた。然し一面よく人
情の機微をとらえて、手落ちなくことを運ぶ点にも充分気を
配られておられた。年代を重ねるにつれて雷的存在から好々
爺に転じ、とくに毛筆で達筆をふるいながら昔をなつかしむ
ようになられてからは先生の私淑されておられた針塚先生
のおもかけが感じられてならなかった。兎に角、先生の印象は
枚挙にいとまないが、先生は終始実に幸運であつたという一

な若さを持しておられ、ドンヨクなまでに学問、社会、芸術
のあらゆる分野に眼を通しておられましたのでレパトリの
広さは実に驚嘆にあたいするものがございます。それです
から私はまいにちの昼食が楽しみでしかたがありませんで
した。私のごとき凡才は、先生の傾誠に近づけても追いつく
ことはできません。しかしながら努力を怠りよつては至近の距
離まで近づけることができるはずで、それも本や勉強だけ
によるのではどうしても速度がにぶります。日常の言語挙措の
間に自然に放出されるものをうけとめるのがもっとも幸福な
人間の一人であらうと考えます。私は退官にさいして先生に
おせじをいつているのではありません。長くおつきあひして
いる方々は、このことばが妥当かどうかしりませんが、みん
な“愛すべきよさ”を申しております。そここのころまで理
解しないでは、先生の学問上の偉大さもほんに判つたとい
うべきではないと存じます。

私が北大に留学中、主任の内田教授は“君の研究は、八木
さんが見ていいといつたら、いつでも出していいよ”といわ
れました。このような先生はそちらこちらにおりましようか
私はその室を出るとき、不覚にも涙をもよおしたことを覚
えております。ほんとうにうれしかったのでした。

いま私は学制上のきまりとはいえ、先生が退官されること
となつて、まるで前途がくらやみになつたような思ひです。
不肖の私は、先生という親のもとを離れ、何も求めえずし
ょうじょうと降る雨のなかに、小さくなつてうずくまつてい
る小雀のようでございます。まったくかわいそうな、みすぼら
しい姿であります。あれだけご指導をうけながら、いまだに
そんなことをいう弟子のふびんさに先生はヒンシュクされる
ことでしょう。

ほんとうに申しわけなく思つております。ご海容ください。

語につきると思われる。先生は血氣盛んな世代を蚕糸業の黄
金時代に過ごされ、昭和2年に母校教授となられてから教授
生活30有余年その間に研究された繰糸張力に関する研究は、
今日の製糸技術の中で益々重要性を増しつつあり、その先見
には賞讃の外はない。昭和31年には日本学術会議第六部会員
に選出され、中央学術の府に参画され、蒲生先生について新
制大学の充実強化、地方大学の在り方等について熱心に研究
活躍された。さらに昭和33年には現伊藤学長の後継として二
代目繰糸学部長に選出され、時あたかも母校改革の旋風吹き
まくる最も重要な時期にあたり、母校改革発展の素地を固め
ることに尽瘁された。非常な御苦勞は御座いましたが、在職
中極めて順調に御過しになられたことは先生にとりまして
も本望を達せられたものと心より御慶び申上げたい。林先生
の多年にわたる母校並びに業界への御貢献に対して心から感謝
の誠を捧げると共に先生の今後の御健勝と御多幸を祈つてや
みません。

ご あ い さ つ

繊維学部長 小 泉 清 明

このたび、はからずも学部長に就任することになりました。今まで研究室の中で生活してきた私にとって、重責がはたせるか疑問であります。微力でも誠心誠意ことにあたるつもりであります。

本年は学部にとって、学部機構の改新問題と50周年記念祝賀の2大事業があります。

学部は前身蚕糸専門学校創立以来半世紀を経ました。その間繊維産業界につくした効績は偉大であります。これは周知の事実であります。しかし残念ながら、今までのゆき方では、急テンポに変わる学界や業界の情勢にマッチしなくなったのが、最近の実情であります。このためあらたに学部機構を考えなおさねばならないことになりました。つまり全面的に学部の機構を再編成して、時勢におくれず、学会の中核とな



り、業界にひっぱられるのではなく、それをリードする昔の姿にもどしたいというのが、全学部の念願であります。

前学部長林先生はこの考えにたって、昨年はその実現に努力を傾注されました。その具体的内容については、しばしば同先生によって、ひろうされました。しかし何分にも時間が足らず、実現にいたらなかったのは残念でした。

私はこの方針をうけついで、学内全職員の方を結集して今年こそはこれが実現できるような、最善の努力をいたしたいと考えます。

50周年の記念事業も、単なるお祭りではなく、このことに意義づけて、とり行いたいものであります。

同窓会の皆様からなる御支援と御べんたつをお願いいたします。

50周年記念祝賀事業日程

4月15日開催の母校教官会議において50周年記念事業祝賀会の日程について審議の上次のとおり決定された。

- 10月19日(水) 準備
- 〃 20日(木) 祝賀式(午前10時から感謝状贈呈を含む) 祝宴(正午から) 市長招待会(午後6時から) 展覧会(午後から)
- 〃 21日(金) 蚕糸・繊維両学会 商工会議所招待会(正午から) 両学会懇親会(午後3時から) 展覧会(朝から)
- 〃 22日(土) 蚕糸・繊維両学会 展覧会(〃)
- 〃 23日(日) 記念講演会(午後1時から) 物故者追悼会(午前10時から) 展覧会(〃)
- 〃 24日(月) 運動会
- 〃 25日(火) 学内祝宴(昼)
- 〃 26日(木) 後かたづけ

- 註 (1) この日程に学生の各種行事が入る予定(祝賀日程中は休講)
 (2) 市中においてはこの期間に大々的な繊維祭を行う模様

田口亮平博士 日本農学賞受賞

本学部田口教授は去る4月2日第31回日本農学大会において多年にわたり研究されている「桑の発育に関する生理学的並びに生態学的研究」に対して日本農学賞を授与された。本賞はその道の最高の栄誉で、このような受賞者が本会の会員中から出たことは、母校の名誉であると共にもまた千曲会に一段の光彩を添えるもので広く同窓一同の喜びでもある。ここに受賞研究の概要を紹介し祝意を表したい。

本研究は次のように大別することが出来る。

(1) 桑樹の発育と貯蔵養分その他の生理的性状の消長との関係並びにそれらの応用的意義に関する研究

この業績は既に14論文の報告がなされ、その概要は次のようである。桑の栽培では桑葉の収穫に伴う枝条の強剪定が行われるが、田口博士は伐採の枝条の再生現象による栄養生長が桑の発育生理を追求する上に重要な問題の一つとなることを先づ取りあげ、これと密接な関係を有する枝条及び根の貯蔵養分の多少並びにこれらの季節的消長について研究を行っ

た。即ち桑の生長期間中における養分の蓄積は主として貯蔵養分の脂肪への転換が認められ、早春の萌芽期直前に再び脂肪から澱粉樹への移行が起るのであって、桑は澱粉樹ではなく脂肪樹の類型に入る。桑のような多年生木本作物の栽培にあつては、毎年の生長量や収穫量は多分に貯蔵養分の蓄積量に支配され、枝条の剪定・伐採・摘葉においてはこの蓄積量を大ならしめること一つの目標をおくことが必要とされる。また桑では収穫の対象が栄養器官である葉であることから桑樹の生理的性状の消長との関係を調べ、これらの応用的意義に及んだ。即ち屈折率から求めた桑葉の細胞液濃度は桑葉の一定生量中の養分濃度を総合的に示す一つの指標となることを明らかにした。このことは桑葉の細胞液屈折率を測定することによって葉身の物質充実度延いては葉質を判定し得ることとなる。

(2) 桑樹の発育からみた日長効果並びにその応用に関する研究

この業績は既に8論文の報告がなされ、その概要は樹木における日長効果として重大な意義を有する枝条の生長量及び

枝条の耐寒性に及ぼす日長の影響を取りあげ、これらに關係する各種の發育現象が日長によりいかに支配されるかを調べ、桑品種の生態型の解析を行った。このことは桑の適良品種を栽培或は育成する場合極めて有意義であると認められる。

その他本受賞に關係のある業績は論文37篇、著書3冊で、特に作物生理学(養賢堂発行)は大著中の名著との評が高い。

なお先生は上田蚕専を経て九大農学部をご卒業され、植物生理学の権威額顯博士のご高弟で、現在学部内外にご活躍されておられるが更に將來のご發展を祈りつつ筆をおく。

(閑記)

沓掛久雄博士日本蚕糸学賞を授与さる

日本蚕糸学会第30回学術講演会は去る4月9日から3日間東大農学部で開催されたが、初日の總會の席上学会の学賞授与式が挙行された。本年の受賞者は沓掛久雄博士(鐘紡蚕糸取締役蚕業試験所長)と高見丈夫(蚕糸試験場技官)の2人であった。沓掛氏は昨年6月貞明皇后記念蚕糸技術賞を授与されたばかりであるが誠に喜ばしく慶賀にたえない御業と心から御祝い申上げる次第である。氏は昭和7年上田の養蚕学科を卒業して蚕糸試験場に勤務、化性或蚕種保護の研究で有名な故渡辺勲博士の下で研鑽をつまされたが数年後選ばれて現在の鐘紡入りをされたのであって、その堂々たる偉風とともに学者で技術者で又立派な実業家という八面六臂の卓越した人で武蔵鐘紡社長の太い片腕として信頼が厚いことはここに記すまでもない。今度の受賞論文は「蚕卵の保護に関する研究」であるが、この他今日迄幾多の優秀な蚕品種の育成に尽力された業績は今回の受賞研究にも劣らぬ大きい功績と筆者は信じている。本年48才の壮令、洋々たる前途感々御多幸ならんことを祈るとともに、益々御自愛御自重あらんことを念願してやまない。

以下に今回の氏の受賞論文の大要を示すが、之は蚕種の保護に関する各般の事項に亘り系統的に研究し蚕種保護の実施技術を顕著に進歩せしめたものといえる。

- 1). 越年卵を冷蔵して不越年卵に変化させる場合産卵直後高温に保護する日数を長くする必要があるが高温が60日乃至90日を過ぎる再び必要冷蔵日数は短くなる。
- 2). 蚕卵をして長期冷蔵にたえさせるための高温保護は60日以内を適當とする。
- 3). 越年性を脱せしめるためには5°Cがよいので0°C以下は發育抑止にはよいが不越年化のためには好適でない。
- 4). 又不越年化の方法として浸酸法による場合著者考案の液温と浸酸時間との關係式によれば便利で有効である。
- 5). 短期冷蔵浸酸種は孵化不齊になりやすいが之は浸酸後高温処理をすれば齊一にならしめる。
- 6). 人工不越年卵の冷蔵の際発現する白ハゼ卵は高温より低温に移す場合の他、低温より高温に移すことによって生ずす。
- 7). 白ハゼ卵は5°C以下の低温のみでなく15°C位の温度でも場合によって発現する。
- 8). 白ハゼ卵防止のためにも又催青の安全のためにも温度の上下を漸進的に行うことが必要である。
- 9). 産卵当時の卵を過度の高温又は多湿におくときは違作の原因となりやすい。(山口定次郎記)

田中亮博士衛生動物学会受賞

高知女子大学教授田中亮理学博士は「鼠の生態に関する研究」によって昭和34年度第5回日本衛生動物学会賞を受賞した。本研究は主に個体群生態学に関するもので、個体数推定法個体群動態的研究・鼠大発生とササ類一斉開花現象との因果關係・野鼠と恙虫との相互作用等の研究であって衛生動物学に一新分野を開拓した調期的な業績である。田中博士は本学部の前身上田蚕糸専門学校昭和5年卒業その後台北帝大理農学部を卒業し終戦迄同学部の助教授をつとめていた我国屈指の生態学者である。現在高知女子大にあって孜々として研究を進め、その特異な研究室は先年朝日新聞の学芸欄に詳しく紹介された。養蚕科17回の卒業生では先に山崎伝農学博士(農林省北陸農業試験場環境部長で我国土壌学の権威として有名)が昭和29年度日本農学賞を受賞しており田中博士に次いで筆者が昭和35年度日本農学賞を受賞したので、一クラスで3名が相次いで学会賞を受けたわけである(山口亮平記)

小林運美氏(糸16)海外出張

本会副理事長小林運美氏は海外視察のため3月31日羽田空港を出発の旨本会に次のように通知があった。

本日は御多用中御見送り下さいまして誠にありがとうございます。4月1日朝10時パリ着、スイス、独逸、英国を経て、4月8日ブラジルのリオデジャネーロ着、約一週間同地滞在、4月中旬にニューヨーク着、カナダの主都オタワを経て、アメリカ各地を廻り、4月末帰国致す予定です。

千曲会員皆様の御健康を祈りつつ。

理事会及び50周年記念事業 実行委員会總會開催決定

5月14日(土)午後2時より母校会議室において本年度第1回理事会と併せて50周年記念事業実行委員会總會を開催することに決定した。本会役員及び各支会から実行委員1名必ず出席するよう御願います。議題は

1. 50周年記念事業募金申し込み納入の総仕上げについて
2. 50周年記念事業祝賀会の日程および事務分担について
3. 記念事業協賛会の発足について
4. 母校学部改新実現に対する千曲会の協力について
5. その他

千葉県社会教育課長在職中は公私共多大の御厚情を賜り有り難く厚く御礼申し上げます。
今回千葉県立市川工業高等学校長を命ぜられましたについては旧倍の御指導御鞭撻を御願い申し上げます。

昭和35年4月1日

習志野市大久保町4丁目113

大 沢 宝 市

(養蚕科16回卒)

林 貞三 両先生退官記念品 八木誠政 贈呈資金募集

長い間母校において教育、研究にたづきわり、学会、産業界に偉大な業績を残してきた両先生には業なり名とげていよいよ本年三月をもって退官されました。常に若々しく母校の中心となり、また学会、産業界のリーダーとなって活躍されていた両先生の勇退はほんとうに惜別の情にたえないのであります。ついでには両先生に記念品を送りいささか謝恩、慰労の意を表したい次第であります。千曲会員にはこの趣旨にご賛同の上、お出資を賜われますようお願い申し上げます。

募 金 要 領

1. 拠出金 1口 200円
口数は自由…必ず両先生別を明記のこと。
2. 送り先 当学部千曲会内、林、八木両先生退官記念会
(振替口座東京43341)
3. 締 切 昭和35年11月30日
4. 記念品または資金の贈呈方法は発起人におまかせ下さい。
5. 募金方法の詳細は時日がなかったので、発起人会において相談の上、追ってご通知申上ります。

昭和35年4月14日

林、八木両先生退官記念資金募集発起人代表
小泉 清明 萩原 清治
田口 亮平 山口定次郎

第8回 卒業論文発表会

会報No.98号において養蚕学科、製糸学科の卒論を紹介したが、3月2日行われた紡織学科、繊維化学科の研究発表会の標題は次の通りであった。

紡 織 学 科

研究室名	研究学生	研究 題 目
久間研究室	山岸 宏	綿糸の引張強さについて
久間研究室	小平 邦生	梳毛糸の引張強さについて
久間研究室	川岸 弘生	絹紡糸の引張強さについて
鈴木研究室	鈴木 増男	テトロン繊維の湿熱処理に関する研究
三浦研究室	飯田 耕三 勝野 邦夫	織物の縮みに関する研究
三浦研究室	内川 善夫	織物の耳に関する研究
野口研究室	若林 英雄 和田 今朝春	混紡糸の移動指数と強伸度の関係
野口研究室	保坂 濃宏	繊維の選択的分布を支配する因子について
一志研究室	小林 脩三	フライヤープレッサーの加圧力測定方法(フライヤーに関する研究1)
一志研究室	中沢 賢	プレッサーとボビンの間に働く力について(フライヤーに関する研究2)
一志研究室	小池 了	粗紡織の巻取張力とこの巻径とボビンとフライヤーとの相対回転数
一志研究室	柳沢 清充	粗紡織巻の硬さ測定方法について
呉 研究室	浅山 俊幸	織物の官能検査
呉 研究室	門井 滋一 西沢 一男	捲縮繊維集合体の bulkiness 表示
呉 研究室	間宮 広康	織物の圧縮弾性率の測定
呉 研究室	土屋 成令	繊維集合体と相似則
小林研究室	鷹野 泰	ゴム編地に於ける撻数の変化に対する伸縮性について
沢路研究室	徳武 正人	織物の光沢について一反対特性の微細構造
沢路研究室	小林 茂雄	織物の光沢表示の一方法
沢路研究室	幾原 敏行	誘電体に及ぼす強電場処理の影響
繊 維 化 学 科		
大平研究室	新井 正彦	水溶性繊維の製造とその応用
隅田研究室	池内 洸一	チオウレタン繊維について
会田研究室	石田 保	ポリエチレン繊維のブライト重合による染色性の改善
遠藤研究室	市川 喜久	染料中間体の合成(2-アミノ5-メチル1,3,4-チアジャゾールの合成)

北条研究室	遠藤 正雄	アミノ酸型キレート樹脂の反応恒数とエンタルピー
大平研究室	小幡 裕子	絹フィブロインの結晶領域及び非結晶領域の定量とその諸性質
黒岩研究室	片桐 滋雄	高分子皮膜の選択湿潤に関する研究
会田研究室	北原 匡	ミクロスベクトロ・フォトメーターによる染色速度測定について
北条研究室	小林 勝利	絹繊維の Mg の吸着について
遠藤研究室	近藤 道郎	合成繊維用染料の合成(ベンゾチオモルホイン)
隅田研究室	坂井 士 宮崎 敏夫	着色焙触糸糸について
隅田研究室	佐藤 正義	ビスコース法における低アルカリ浸漬
会田研究室	清水 克正	ホルマール化絹の染色性について
会田研究室	須藤 克司	染料吸着量と繊維の物理的性質の関係
坂口研究室	清水 一徳	繊維の劣化による粘弾性の変化
黒岩研究室	高木徳次郎	溶液構造研究のための X線操作について
会田研究室	高沢 弘明	エチレンミンによるセルロース繊維の染色性の改善
会田研究室	伊藤 穰	難染性合成繊維に染色座席を作る方法
北条研究室	高橋 茂美	絹及び羊毛の Cr 吸着について
会田研究室	高橋三恵子	カチオン染料によるエックスランの染色について
大平研究室	千村 一平	絹フィブロイン含有 P.V.A 繊維の製造とその諸性質について
黒岩研究室	塚原 保人	高分子皮膜の選択湿潤に関する研究(7)
会田研究室	中川 哲雄	キャリアーの羊毛に及ぼす影響
北条研究室	長井 理	ポリメタアクリル酸の分子変形と金属の吸着量
大平研究室	橋詰寿美雄	ポリアマイド系繊維のホルマール化とその染色性について
隅田研究室	平波 弘 山田 邦男	ポリアクリロニトリルのエマルジョン紡糸
遠藤研究室	堀内 貞雄	染料中間体の研究(2-アセトアミド5-メルカプトチアゾールの合成)

SAISON Kuma

3月15日

上田蚕糸専門学校卒業式の日

遙かに母校の発展を祈念し、併せて先生のご健康を御祝申し上げます。

私共の卒業は昭和3年でしたから丁度33回目に当たりましょう、小林貫一が総代で貰って来た免状をあの体操場の畳の所でわけて貰いました。その時誰かが針塚先生の声色を使って名前を呼び上げたかも知れませんがそれは思い出せませんが忘れられないのは卒業式の前日死んだ依田寛君のあったことと樋口啄磨さんからの卒業生諸兄へという長野からのお手紙のこです。依田君の墓前には29名の大部分が集り、これが卒業後最初の級の事業となったことを覚えています。樋口さんのお手紙は予期しなかったゆい言となって吾々の胸を塞ぎましたあれから33回目の春なのです。

この春が吾々の級友にとっては、暗い淋しいものとなる者もあるかも知れない知命の風が吹く年輩となっているのですそれこれの思うにつけ、私は新しい希望と野心とに包まれた、新卒青年諸君に期待を持ち彼等に私し達の到達し得なかったコースを進ませたいと思うのであります。

そんな意味から私は新しい人達の前途を大きく祝福申し上げたいと思います。

卒業式の日を懐い長い間のご厚情に御礼申し上げます。

二仲

林先生も愈々ご卒業となられますね。殆んど創立以来の重鎮として多年にわたり千曲会のご指導迄戴いたことは感謝にたえません。

ご退任に当り後継者に器を得たのも先生の徳の致す所と存じます。

まだまだ是からいろいろと御願せねばなりません。

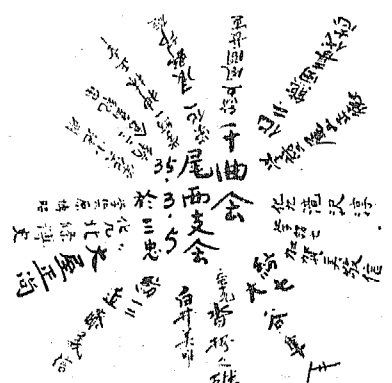
どうぞおからだご大切の程を御願申し上げます。(蚕15 山本友之蔵)

愛知支会尾西地区総会便り

陽春の風も爽かに梅花咲き香る今日、3月5日織物の都尾張一宮三忠東店に於

て、尾西地区の総会を開催致しました。母校千曲会本部よりは白井先生が懇々出席されました。千曲会尾西地区会員は50余名ありますが、折悪しく各業界多忙の折とて16名の参加者がありました。

先づ愛知支会長香掛博士より昨年末の本部総会の模様並び愛知支会の1年間の経過報告が行われました。本部の総会に於て特に東海地区は伊勢湾台風による被災多く、精神的にも物質的にも甚大なる被害ありて、記念募金のメ切期限の延期取扱や被災地区への見舞状発送等の提案



の説明がありました。

愛知支会は現在四地区に分れて夫々総会が催されているが先の世話人会に於て各地区に副支会長を1名おく事となり、尾西地区は東海合織(株)の大谷隼人氏が全員一致で推挙されました。

会員諸兄より千曲会員名簿の編集不備なる点、特に広告欄の誤等多し、千曲会費本部直送分に就ては支会に必ず連絡すべきであり。

又千曲会報の1月号が会員に配達不十分で総会報告を知らない方があったが之等は本部の横の連絡が密でない等の点に就て発言あり、次で本部代表の白井先生より母校の近況、千曲会の動静等について御説明がありました。

議事も円滑に進み懇親会に入り、支会長を初め各自夫々自己紹介少々持前の余興披露あり、老も若きも互に酒盞を交えて、歓談を重ね、午後9時尾張織維試験場近藤義信氏の音頭で千曲会万才を三唱して盛会裡に散会致しました。尚当日の出席者は寄書の方々であります。

今回御都合悪く御欠席の各位には是非次回に御出席下さる様御伝えします(化2 回熊田喜代志記)

母校だより

- 3月16日付で庶務係長新保義一事務官が信大本部任用係長に厚生補導係長中島暹事務官が庶務係長に今井輝雄事務官が厚生補導係長にそれぞれ配置換があった。
- 3月31日付で学部長林貞三教授、八木誠政教授、斎藤実教授、宮下甫氏、小林仁三郎氏がそれぞれ停年退職された
- 4月1日付で小泉清明教授に学部長の発令があった。なお養蚕学科織維農学担当の加藤康正講師が、織維化学科へ工業化学担当の後藤春雄助教授が既に発令が就任されている。
- 4月12日入学宣誓式が厳粛に行われた。入学者は昨年同様半数以上が県外者でその出身府県は全国に亘っている。

千曲会告知板

盛り上げる50周年記念事業募金申込

記念事業募金申込はいよいよ仕上の段階に進み各支会実行委員長の多大の御尽力によって前月号会報に登載の募金申込納入調べ後現在新に山形支会(100.0%)千葉支会(108.2%)富山支会(101.7%)南佐久支会(100.0%)三重支会(128.2%)は募金申込割当達成の成果を挙げられた愛知支会は割当募金に対して103.1%の完達であるが人員割も賛同応募会員205名で92.1%の現況でその成果について本会役員も感激しております。

宮城支会は既に133.1%の達成率であるが更に未申込会員に賛同を得るため申込書用紙を送れと本会に通知があった。

本会日誌

- 3月22日愛知支会稲垣文一郎氏来会
- 3月25日蒲生俊興氏来会
- 4月1日上小支会長和田晋氏来会
- 4月6日上小支会竹岸孝夫氏来会
- 4月9日近畿支会小林敬明氏来会
- 4月16日会報編集委員会開催
- 4月16日山陰支会伊藤幸男氏来会
- 4月17日三重支会総会に本会より野口理事長出席
- 4月19日東京支会藤木茂氏来会
- 4月23日福島支会総会に山口理事出席

黒岩研究室 水野 伸夫	界面活性剤のミセル形態とその物理化学的性質との関係(非イオン性界面活性剤濃厚溶液の粘弾性と温度との関係)	北条研究室 山浦 茂雄	フェノール樹脂合成における重金属イオンの作用
黒岩研究室 宮下 周次	非イオン性界面活性剤のポリオキシエチレン基の重合度分布と物理化学的性質との関係(1) (添加電解質の電導度変化)	遠藤研究室 山本 正秀	染料中間体の合成 (ベンゾホルホルンの合成)
		坂口研究室 中沢 竜雄	ポリエステル系合成繊維のキャリー染色について

50周年記念事業募金申込		6 山陰支会	1,000円 柳沢俊雄 (学化1)
1 愛知支会		3,000円 福場小四郎 (糸25)	19 山梨支会
2,000円 近藤五代治 (糸6) 神戸敏夫 (糸12)		7 山陽支会	5,000円 笹本保雄 (糸15) 降旗孝(糸15)
1,000円 土屋邦雄 (紡21) 平野庄一 (紡16)		10,000円 土屋光郎 (糸7)	3,000円 久保田不二夫 (糸23) 井本俊一 (糸30) 小沢賢治 (糸30) 細田増郎 (糸29)
2 三重支会		3,500円 町田博 (紡21)	2,500円 矢崎豊 (化1) 飯田九十九 (糸32)
10,000円 白井武 (紡6)		2,500円 土屋貫一 (化2)	2,000円 把田英司 (糸36) 渡辺俊彦 (糸36) 川久保卯人 (糸36) 春原康国 (糸35) 更級乙男 (化4)
5,000円 小野修二(糸7) 谷川海造(糸12) 柳信夫 (紡7) 辻本勇 (糸19) 坂口孝保 (糸17)		2,000円 米山達雄 (糸33后) 西沢寛夫 (化7)	1,500円 根本剛 (学糸1) 宮沢英雄 (糸28) 島田昭郎 (農2)
4,500円 大井正夫 (糸20) 鈴木正吾 (糸21)		1,500円 河合厚 (学化2) 山崎光寿(化9)	1,000円 吉沢直美 (学糸4) 佐々木公夫 (学糸7) 長谷川悟央 (糸15) 三沢保 (糸別1) 宮下篤 (糸別2)
4,000円 岩本一郎 (紡16) 大塚浩(紡17) 菱田政二 (糸23)		1,000円 桑本正義 (糸23) 池内鼎(学化4) 糸原晃 (学化7) 東城篤義 (学化5) 高沢正彦(学化3) 峯村勲弘 (学化7) 佐藤康己 (旧教)	500円 和田治男 (糸別1)
3,500円 佐藤嵩 (紡20)		8 徳島支会	20 南佐久支会
3,000円 荒井富尾(紡24) 大井学 (糸6) 山下昇 (糸30)		2,500円 稲富信一 (紡専)	2,500円 高見沢久一 (糸33)
2,500円 宮沢安雄 (紡26)		1,500円 依田直祐 (学化1)	2,000円 松永省治 (糸37)
2,000円 木村敏 (化6) 堀原泰夫(紡23) 小島俊郎 (糸37)		1,000円 佐藤理 (学化2)	1,500円 内藤舜永 (農5) 高見沢良夫 (化1)
1,500円 高城克二 (化9) 湯原悟(紡27) 百瀬要一(紡28) 谷口昭三 (紡29) 奥原康佑 (学化1)		9 高知支会	1,000円 高橋裕 (糸35) 三石義人(化2) 佐藤亮 (学糸5) 木内明 (農4)
1,000円 手塚 利夫 (学紡2) 篠原大 (学紡5) 小泉郁雄 (紡専)		2,000円 小松茂久 (糸9)	非出元一 (農2) 内藤俊雄 (紡27) 山本邦純 (学糸1) 岡村連 (旧教)
500円 中島忠三 (学紡7)		10 愛媛支会	21 上小支会
3 近畿支会		4,500円 羽藤泉 (糸23)	10,000円 小宮山太助 (糸8)
5,000円 飯島貞雄 (紡1)		11 北九州支会	5,000円 高橋善吾 (糸1)
3,500円 東正雄 (紡20)		3,000円 西川晋 (糸23)	2,000円 秋山二郎 (糸34)
2,500円 改正猛 (紡26)		2,000円 川谷寿一郎 (糸23)	1,000円 小林利光 (学糸6)
2,000円 笠井利是 (化6) 松本昇(化7) 荻原博文 (紡27) 夏井清喜(化7)		1,000円 遠藤栄一 (糸15)	22 更埴支会
1,800円 西島靖元 (化7)		12 北奥支会	2,000円 湯原理三 (糸36)
1,500円 瀬在袈婆治 (学化1) 上原寅男 (学化1) 中山徳重 (紡30)		500円 湯沢裕 (化5)	23 追加申込
1,000円 村上守生 (学化1) 関口真雄 (学化2) 小山直方 (学化4) 黒沢一茂 (学化7) 小林敬明 (学化6)		13 茨城支会	2,000円 工藤見吉 (糸17)(愛媛) 中村登一郎 (紡19)(愛知)
700円 深井英雄 (学化4)		1,000円 鈴木昭 (学糸5)	1,000円 稲垣文一郎 (糸23)(愛知) 後藤仙弥 (糸9)(山形)
500円 西沢正純 (学化5) 輪湖朝雄(学化6)		14 群馬支会	500円 柳沢千代茂 (化2)(山陽) 大屋正尚 (化9)(岐阜) 堀内あい子 (旧教)(上小) 前田雅弘 (糸14)(山形) 斎藤幸蔵 (糸15)(山形) 井上兵一郎 (糸12)(山形)
4 兵庫支会		500円 若林きよ子 (教1)	小 計 284,000円
3,000円 砂田正義 (紡21)		15 栃木支会	累 計 5,002,450円
5 三丹支会		500円 若林きよ子 (教1)	
2,500円 岩崎隆次 (糸29)		2,000円 平川守 (糸31) 室岡茂克(糸20)	
		1,500円 関和夫 (糸37)	
		1,000円 半田幸孝 (化4)	
		17 東京支会	
		4,000円 深井阿児夫 (糸28)	
		18 神奈川支会	

編 集 後 記
 激潮清らかな5月となりました。会員皆様の御健勝と御活躍の程御祈りします。50周年記念事業祝賀会の日程は本号に掲載のとおり決定しました。募金申込納入も総仕上げの時にあります実績向上のためこの上御高配願います。
 編集理事 田口亮平 編集部員 篠原 昭 矢彦沢清允 降旗剛寛
 白井美明 小笠原真 滝沢 達夫 白井要範